

# 村のがまだしモン

No.8

村で頑張っている若者を  
紹介します

辰巳 たつみ 和美 かづみ さん 両併地区



女性消防団分団長を務める辰巳さん

現在家族9人で生活。高校卒業後就職。21歳の時結婚しました。2年前に転機を迎え、農家のアルバイトを始めました。1年目は何も分かりませんでした。2年目、自分でも「頑張れば出来るのでは」という思いを持ちました。そして今年、右も左も分からない中、心機一転、就農に向けて力を感謝をし、『頑張るぞー』という気持ちでいっぱいです。大玉トマトを作ります。消費者の「おいしい」の一言を目標にしっかりと手をかけていきます。

また、村の女性消防団の分団長をしています。家事に仕事に、育児にと忙しい日々ですが、皆さんに防災・減災活動をどう伝えていくのが、課題です。いろんなセミナー等への参加で、『広報活動の大切さ』を学びました。現在いろんな場所で発表できるよう準備を進めています。（興味のある方は、ぜひ近くの消防団員に、声をかけてください。）

最後に一言。「私も4人の子供の母親です。初年度を迎える南阿蘇中学校が、第一に子供たち、そして保護者も統合してよかったと言える学校生活ができるよう、よろしく願います。」と語られた和美さんでした。

北 きた 直史 なおふみ さん (29歳)

麻子 あきこ さん (31歳) 吉田地区

熊本工業高校を卒業後、山梨県にあるサドヤ農場で3年間のぶどう栽培研修を経て就農。現在9年目。家業である観光ぶどう園ノースグレイプファームにて、ぶどうの栽培管理を一手に引き受けている。

就農のきっかけは、子供の頃運動会の弁当に入っていた我が家のぶどうを友人にあげたところ、「とても美味しい!」と言って喜んでくれたことが始まり。

昨年3月、4Hクラブの活動を通じて結婚し、両親と妻を含め4名で【全てのお客様に感動して頂けるぶどう作り】に挑戦中。

また、2年前より県内の若手ぶどう農家を中心としたグループ「天下一葡萄会」を発足。勉強会を重ねながら、栽培技術の向上を図り、将来的に県全体のぶどうのイメージアップへ繋げていきたいと考えている。

夢は、巨峰を超えるオリジナルブランド品種を生み出すこと。子供達が、将来職業として憧れるような農業経営をしていきたい。



「夢はオリジナルブランド品種」と語られる北さんご夫妻

## 編集後記

議会議員の任期も一年足らずとなり、広報活動も残りわずかとなりました。28年第一回定例会において新年度の予算もスタートした中で、広報誌作りを通じて議会活動をより多くの方々に知っていただきたい思いで活動を行ってまいります。

「議会、たより」も今回を含めて残り4回となりましたが、任期中の活動を初心に帰り、最後まで広報委員一同努力していきたいと思っております。今後も村民の皆様一人でも多く見守りに努めてまいります。

議会広報特別委員会

副委員長 市原 秀志

### 議会広報特別委員会

委員長 桐原 純男  
副委員長 市原 秀志

委員 脇坂 春喜  
委員 後藤 征昭  
委員 丸野 健一郎  
委員 太田 吉浩

### 発行責任者

議長 荒牧 俊一